

ANIC info



Association for
Nakano
International
Communications

中野区国際交流協会

2024
November

ANICの学習者から外国人防災リーダーが 選ばれています！

中野の中学生がニュージーランドの
ウェリントンへ行ってきました！

お知らせ

ANICの子どもの日本語

非常勤職員募集中!!

子ども日本語クラス

中学生日本語集中教室

オンラインで日本語学習



ANICの学習者から外国人 防災リーダーが選ばれています！

「防災リーダー」をご存じですか？

地域防災力の向上の取り組みの一つとして、地域の防災活動に貢献する意思のある方で、中野区が主催する「防災リーダー養成講座」を受講し、地域の防災活動の担い手となるために正しい知識や技術を習得した方のことです。中野区には約200人「防災リーダー」がいます。中野区の外国人の人口は増えている一方で、外国人の防災リーダーは今までいませんでした。例えば、災害が発生し避難所を開設した時、同じ国から来た人や言葉がわかる人で、地域の防災に詳しい防災リーダーがいたら、他の人も安心です。そこで、中野区防災危機管理課が「外国人防災リーダー」を募集し、ANICの日本語講座の学習者から5人が手を挙げて、選ばれました。

外国人防災リーダー インタビュー

デフランシェスキ トマさん（来日2年 フランス出身）



以前からボランティアに興味があったので、「外国人防災リーダー」に手をあげました。フランスでも心臓マッサージなど救命救急の講習は受けたことがありましたが、地震・火事などの総合的な防災訓練はしたことがありませんでした。

防災の知識は少しありましたが、フランスとルールが違います。例えば、フランスだと、地震があったときは建物が崩れる恐れがあるので、建物から出ると習います。勉強しないと、ルールが違うことはわかりません。

10月の消火訓練で初めて消火栓のふたを開けて、スタンドパイプをつなげました。そのあと、町を歩いていて、消火栓のふたや「消火器」と書いてある看板が目に入るようになりました。普段からよく歩いている道の見え方が、訓練後に変わりました。

今後大きな地震のときなど、避難所の生活は実際どうなのか？をもっと知りたいです。自分がどうすればいいか？いざというときに、自分が動揺しないように備えて、周りの人を助けられるようにしたいです。万一の時に、活躍できるようにしたいです。



8月3日(土) 第1回外国人防災リーダー講座

地震が来たらどうするかの勉強をしました。災害対応ゲーム「クロスロード※」をしました。「あなたは中野区の職員です。避難者が3,000人います。ごはんが2,000食しかありません。あなたならどうしますか。」といった質問に「子どもや高齢者を優先に配布する。」「避難者皆で話し合い、配り始める。」などそれぞれが自分の考えを述べました。また、ペットがいるときの避難の方法や家具の固定方法についての質問もありました。

防災危機管理課の担当者は、参加した外国人の方は想像以上に一人一人、防災に対する意識が高く、知識も深いと感じたそうです。ただ、防災の知識は幅広く、外国人の方がそもそも「何がわからないのか」がわからない部分もあるのではないかと感じたため、今後も何を知らないか、何を知りたいか、知っておいたほうが良いか、一方通行にならないように、実際の状況をイメージしやすいゲームなども取り入れながら、今後よりレベルアップした研修も検討したいとのことでした。

※カードを用いたゲーム形式による防災教育教材。ゲームの参加者はカードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていきます



10月5日(土) 消火訓練

あいにく雨が降る中でしたが、4人が消火器を使用する訓練、消火ポンプを使用する訓練に取り組みました。

消火器を使うときは燃えているものに近づいてから消火器のピンを抜いて、3-5m離れたところから燃えているものを狙います。訓練参加者に日本語で使い方を説明しながら、消火器を使用する訓練もしました。

また、街中の消火栓や消火器の場所を防災危機管理課の職員と歩いて、使い方も確認しました。消火栓のふたを実際に開けて、スタンドパイプとホースをつなげ、バルブを開けて水を出しました。参加者から「消火栓のふたを開けるのは思った以上に重くて大変でした。訓練をして初めて知ること、わかることが多くありました。」という感想がありました。



11月10日(日) 桃花小学校、11月24日(日) 第七中学校で行われる総合防災訓練にも参加します。今後も様々な形で地域の防災力向上に貢献、活躍が期待されます。

中野の中学生がニュージーランドのウェリントンへ行ってきました！

中野・ウェリントン友好子ども交流は、1985年以來、中野とニュージーランドのウェリントン子どもたちが交互に訪問し合い、ホームステイや学校への体験入学や地域での交流などを行っている事業です。

7月26日（金）～8月11日（日）までの17日間、南中野中学校、中野中学校、中野東中学校の2・3年生15人がニュージーランドの首都ウェリントンを訪れ、ホームステイをしながら一週目は学校体験（男子：ウェリントン・カレッジ 女子：セイクリッドハート・カレッジ）、二週目は野外での体験や施設見学をしました。コロナ禍の影響で、このように中学生が訪問するのは、2018年以來6年ぶりでした。

生徒からの声

- ・もともと外国に興味がありましたが、旅行ではない体験をすることができ、また世界にはいろいろな文化や歴史があることを知ることができたのが1番大きかったです。訪問団でいくことで、個人ではできない経験ができたと思います。将来、何に活かせるかは分かりませんが、世界中に友達を作りたいと思いました。
- ・これまで日本を出たことがなかった自分にとって、新しい価値観を持つきっかけになった体験でした。外国の学校の校風や生徒の過ごし方などを見て、自分の固定概念がまた1つほぐれたような気がしました。
- ・原生動植物保護地区（ジーランディア）へ行き、「すごかった。」というしかなかったです。保護の次元が全然違いました。
- ・マオリの人たちと交流したことは一生できないようなことだと思いました。
- ・見えた星空が本当にきれいで感動しました。
- ・特別な存在の親友ができました。



子どもを送り出した親からの声

- ・新しいこと見たことのない物事に、自分から立ち向かっていきたいという興味が大きくなったと思いました。
- ・苦手だった英語への興味が出て、積極的に勉強するようになりました。
- ・普段異文化に触れる機会が少ない人こそ参加してほしいです。ホストスチューデントの長所・短所にふれて、一緒に生活する中で、本人も自分を客観視できるようになりました。
- ・自分で周囲に助けを求めて生活できるようになりました。
- ・自分とは異なる考えや習慣等から距離を置くのではなく、受け入れられるようになりました。
- ・自分のことを自分でする、という当たり前のことが以前よりできるようになったと思います。
- ・「ホストスチューデントは家でやっていたから。」と、料理や洗濯といった家事を自主的に積極的にやるようになりました。

	月日(曜)	内 容
1	7月26日 (金)	中野区役所集合 貸切バスで成田空港へ 19:45 成田発 (NZ 090 便)
2	7月27日 (土)	09:15 オークランド着 (乗り継ぎ) 13:10 オークランド発 (NZ 429 便) 14:20 ウェリントン空港着ホストファミリー と対面式
3	7月28日 (日)	ホストファミリーとの自由な一日
4	7月29日 (月)	体験入学・英語特別授業①②
5	7月30日 (火)	体験入学・英語特別授業
6	7月31日 (水)	体験入学・英語特別授業
7	8月1日 (木)	体験入学・英語特別授業
8	8月2日 (金)	体験入学・英語特別授業
9	8月3日 (土)	ホストファミリーとの自由な一日
10	8月4日 (日)	ホストファミリーとの自由な一日
11	8月5日 (月)	ボルダリング、 プカハ・ナショナル・ワイルドライフセンター 見学
12	8月6日 (火)	キャッスルポイント探検、鹿の牧場の見学、 マラエ (マオリの人の宗教施設兼集会所) 訪問③
13	8月7日 (水)	アドレナリン・フォレスト (アスレチック) 挑戦④
14	8月8日 (木)	水族館見学⑤、ジーランディア (カロリ原 生動植物保護地区) 散策
15	8月9日 (金)	国会議事堂⑥、国立古文書館、 テ・パパ国立博物館見学
16	8月10日 (土)	ホストファミリーとの自由な一日 お別れ会
17	8月11日 (日)	06:00 ウェリントン発 (NZ 440 便) 07:05 オークランド着 10:05 オークランド発 (NZ 099 便) 18:05 成田空港着 貸切バスで中野区役所へ 区役所到着後、解散



①
ウェリントンカ
レッジにて
酒井区長も視察
しました。

②
セイクリッドハー
トカレッジにて
英語特別授業



③
マラエ (マオリの人の宗教
施設兼集会所) にて
歓迎を受けました。

④
アスレチック、
高いところにも
果敢に挑戦し自
信を得ました。



⑤
水族館にて水生
生物のふれあい
体験。
少しびっくり、
でも面白い!

⑥
国会議事堂を見学しまし
た。



非常勤職員募集中!!

応募締切: **11月20日(水)**(必着)

詳しくは ANIC ホームページ (<https://www.anic.jp>)
をご覧ください。

ANICの子どもの日本語

子ども日本語クラス

毎週火曜日・木曜日の放課後の時間に、ボランティアの先生と一緒に日本語を学習しています。最近は、とても増えてきていて、現在、中国、ネパールなど約 30 人の子どもたちが通ってきています。中野区では中野区教育委員会の日本語適応指導で 80 時間、学校へ日本語指導員が赴き、学校で日本語を学ぶことができます。でも、80 時間だけでは時間が足りません。学校が終わった後で、時には疲れた顔をしている子どももいますが、日本語を学ぼうと通ってきています。夏休み・春休みには集中クラスもあります。教室は、いつもとてもにぎやかです。



中学生日本語集中教室

毎週水曜日・金曜日の午前中に、中野区内の中学校に通う日本語学習が必要な生徒たち約 40 人が ANIC で学習しています。通級している生徒の多くが、中学生になってから日本へやってきた生徒たちです。そのほとんどが日本語で高校受験をすることになり、当然ですが高校へ入学後も日本語で授業を受けることとなります。そのため、基礎的な日本語を身につける必要があります。生徒たちは「こどものほんご」(全 34 課)をできるだけ早く修了することを目標に、日々がんばっています。



オンラインで日本語学習

中野区教育委員会は、2023 年度から、不登校支援と日本語指導の一つとして東京都教育委員会の「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム事業」に参加しています。そのオンラインによる日本語指導を、ANICで日本語を学ぶ子どもたちが利用しています。ふだん上記の日本語クラスに通っている子どもたちのうち数人が、月に 1 回、オンラインで楽しみながら日本語を「話す」練習をしています。この日は、中国出身の児童が「●●さんはどんな遊びをしますか。」「●●さんとかくれんぼをします。」など学校生活でなじみの語彙やフレーズを学習しました。子どもたちからは「友だちを先生に紹介するのが、おもしろかった。」という感想がありました。



編集後記

芋掘り体験をしました。子どもの頃の記憶と異なり、ひよろひよろとした細い芋ばかりでびっくり。この夏の暑さを実感しました。(M)

